雑　感

瀬戸正二
(1971～1975)

30周年を迎えて一筆懐古談をとの依頼を受けました。私は机帳面な方ではなく、手許にあるべきはずの関係資料もほとんど散逸させてしまいましたので、思いつくままを綴らせていただきます。

活発化する海外支部の活動

私が支部長をおおせつかりましたのは、高度成長に限界の見え始めた重苦しい時代でした。当支部も1967年に京都でRETECが開催されて以後、活動は停滞していました。SPEの枠内では多くは期待できないが、解散してしまうのも惜しいといった消極的な空気の中で、日本支部はいかにあるべきかの模索が続いていました。

京都RETECのPR効果で会員数は増えましたが、それ以上に支部の事務量が急増し、私の就任後まもなく、混乱状態に陥ってしまいました。会費の払込みやリベートの受取りにトラブルが続発しました。会誌が送られてこないとか、ANTECやRETECのプレプリントを注文したのに未着であるとか。住所変更を届けてあるのに旧住所に郵便物が来るとか……苦情が殺到しました。そのうえ、支部会員が会誌を入手できるのは発行から数ヶ月おくれですので、SPEの主催する色々なイベントに参加したくても、会告案内などは後の祭りに終ってしまうといった状況でした。

本部（HQ）に提案や抗議を申込れて、やっと一歩前進したかと喜んだのも、つかの間、HQの担当者が替って元のもくあみになってしまったことも再々でした。HQとの関係改善につきましては、幾度か投出してしまいたくなりましたが、これも今ではなつかしい想い出です。

それにつけても、支部事務局を担当して根気よく悪条件の改善に取組み実績を挙げて下さいました永井博士には、心より感謝と敬意を捧げる次第です。

非力の私が悲哀を味わうことの多かったのはむしろ当然のことでしょうが、当時に比べますと、SPEも今や名実ともに国際的な組織に発展してまいりました。

現在ではAMERICA、CANADALI外に、BENELUX、CENTRAL EUROPE（ドイツ語標諸国),FRANCE,INDIA、ISRAEL, JAPAN、REPUBLIC OF CHINA……(他にメキシコに参支部）……と多数の海外支部が活発に活動を展開しています。今後は国際的な協調・交流が益々急速に進んでゆくものと思います。当支部もその中で重要な役割を果すことを期待する次第です。

He profits the most who serves the best

蝶々は我々の目を楽しませてくれる美しい昆虫です。蜜を求めて花から花へと飛び回っていますが、その間に実は、花粉媒介という重要なサービスを果しているのです。

このような見方からすれば、蝶はまさにサービス精神のシンボルであるともいえましょう。私も蝶の愛好者のひとりですが、SPEのHQからVIPか来日されたとき、記念としてPMMA中に蝶を封入した置きものを作って贈ることにしていたことをなつかしく思い出します。奥さんには小さな蝶を入れたブローチを差しあげたこともありました。

私共はSPEの会員としてその特権を享受するかわりに、SPEに対して応分の寄与をすべきであり、両者のバランスが失なわれますと何かと障害が発生するものと思います。こんな気持を込めて、VIPの労をねぎらい、海外支部としての活動について話し合ったものでした。つき合い下手の私にとって、蝶の贈りものは初対面の「食前酒」にもなってくれました。

私は自宅の庭に飛来したアゲハチョウやベニシジミを捕集し、そのあとは永年事務を手伝っていただいた器用な細野女史に注型法による樹脂中への封入から切削加工、研磨仕上げ、さらには文字入れから包装ケースの手配まですべてお願いしました。

もう、何年前になりますか、正確には憶えていませんが、MYERS会長が来られたとき、蝶を囲んで撮っていただいた写真がありましたのでここに掲載させていただいて、細野女史への感謝の言葉にかえさせていただきます。

サンフランシスコで開催されたANTECに当支部から、グループ参加しましたときも、蝶を持ってまいりました。